

# RV pocket

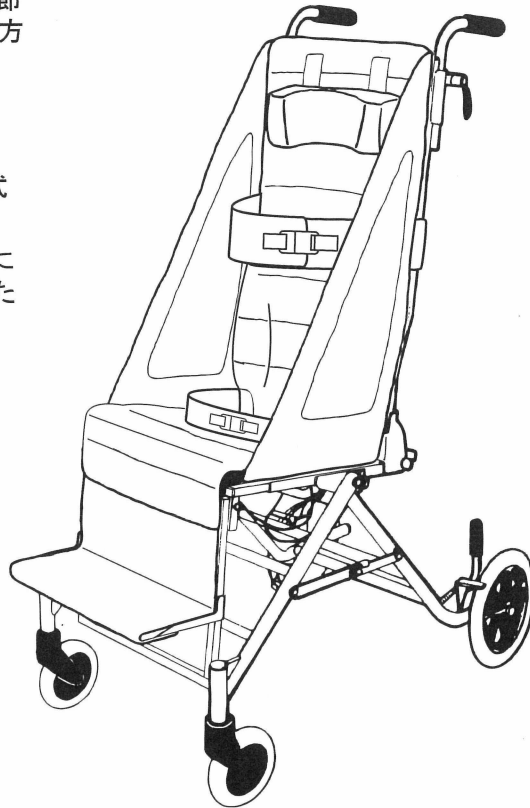
実用新案出願済

## 取扱説明書

RV pocketを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

### RV pocketの特徴

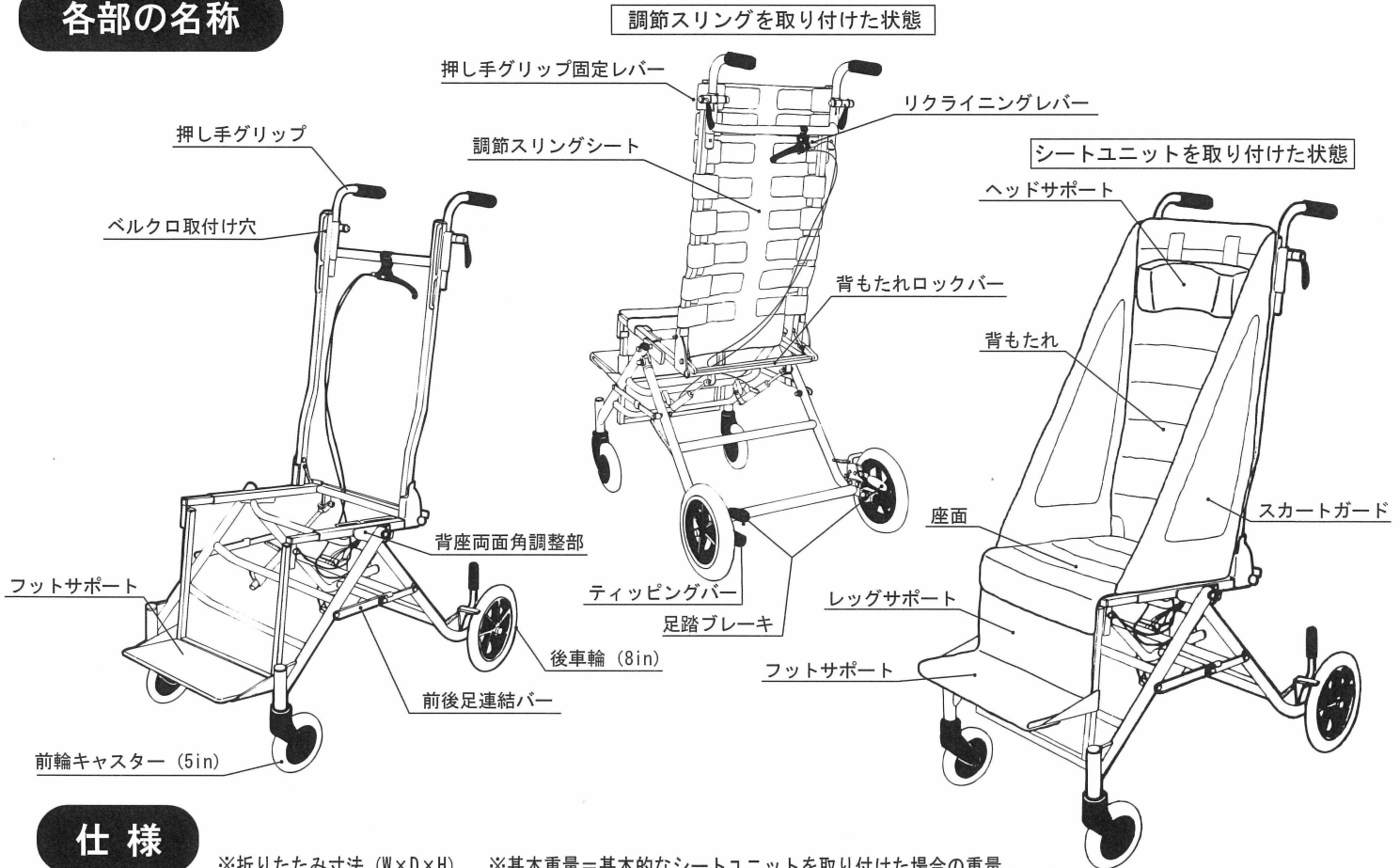
- 姿勢保持機能付き
  - ・調節スリングシートによる背・座張り調節
  - ・体幹サポートインナーパッドおよび座面前方ウェッジによるサポート調整
  - ・背座両面角は90°・101°・112° に設定可能
- 無段階ティルティング機構 (0°～45°)
- 座面奥行き・フットサポート高さ調整式
- シートユニット
  - ・全体にメッシュ生地を採用し、さらに背シートクッション材にも通気性に優れた立体編物フュージョンを採用
- 押し手高さ調整式
- ノーパンクタイヤ仕様



### 目次

- 各部の名称 ..... P1
- 仕様 ..... P1
- 製品構成 ..... P1
- オプション部品 ..... P1
- 使用前点検 ..... P2
- 各部の取り扱い ..... P2
- 調節スリングシートについて ..... P2
- 禁止・注意事項について ..... P3～4
- 折りたたみ方 ..... P5
- 開き方 ..... P5
- 折りたたみ固定ベルトについて ..... P6
- 車椅子の取り扱い ..... P6
- お手入れ・メンテナンス

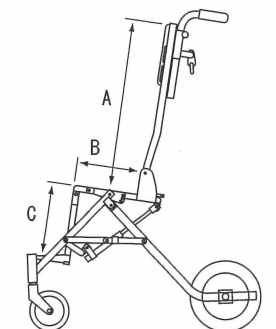
## 各部の名称



## 仕様

※折りたたみ寸法 (W×D×H) ※基本重量=基本的なシートユニットを取り付けた場合の重量

		Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ	LLサイズ
座幅	mm	300	325	350	390
背高さ (A)	mm	580	640	700	750
座奥行き (B)	mm	200~230	250~295	300~375	300~375
足乗せ高 (C)	mm	135~255	175~295	205~355	205~355
折りたたみ寸法※	mm	750×490×280	755×495×290	800×520×340	830×560×370
基本重量※	kg	約10.0	約10.5	約12.0	約12.5
ティルト角度	度	0~45			
背座両面角	度	90、101、112 (詳しくは「各部の取り扱い」P2 をご覧ください)			
調節スリングシート		マジックシート・テープ=ナイロン100%			
シートユニット		メッシュ生地=ポリエステル 100%			
対象年令		~4才位	4~8才位	8~12才位	12才位~



## 製品構成

		個数
●基本フレーム		1
●調節スリングシート (背・座)		1
体幹サポート	体幹	2 (左右1対)
インナーパッド	骨盤	2 (左右1対)
座面前方ウェッジ		1

		個数
●シートユニット	背シート	1
	座シート	1
	スカートガード	2 (左右1対)
	ヘッドサポート	1
	胸ベルト	1
	腰ベルト	1

## オプション部品

日除け	(RVポケットのパンフレットをごらんください)
バスケット	W280×D180×H200 (コンパクトなタイプのポータブル吸引器を収納できます) (RVポケットのパンフレットをごらんください)

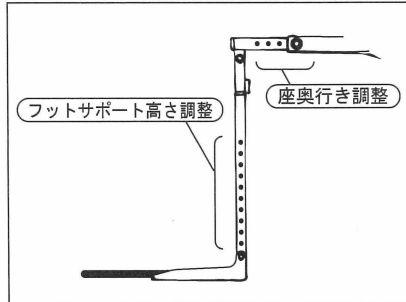
## 使用前点検

- ◎ブレーキが正常に効くか確認してください。
- ◎ティルト動きがスムーズにおこなえるか確認してください。
- ◎ネジのゆるみやガタがないか確認してください。

## 各部の取り扱い

### ●座の奥行きとレッグサポートの調整

ネジを差し換えることで、使用される方の大腿長と下腿長の長さにあわせて調節ができます。

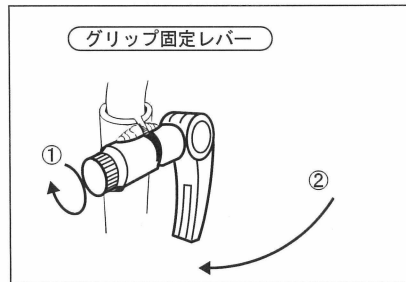


### ●グリップ固定レバー

自由な高さ、方向でグリップを固定できます。

①のネジで締め具合を調整し、②のレバーで締め込みます。①の締め方が弱いと②の締め込みが効かない場合があります。移動中に緩むことがないようにしっかりと締めてください。

〔詳しくは、別紙「押してグリップ固定用クイックレバーの調整方法」をごらんください〕

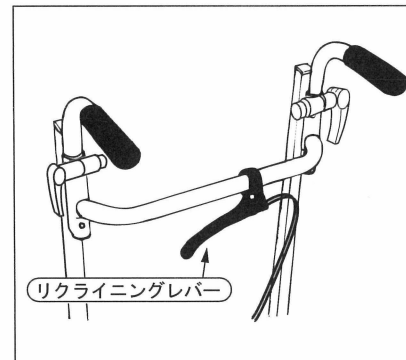


### ●リクライニングレバー

背もたれの後ろ側にあるレバーを握るとロックが解除され自由な位置でリクライニング角度を設定することができます。レバーをはなすとその角度で固定できます。

△ リクライニングレバーのあそびが多くなってきたらワイヤーの張り調整をおこなってください。

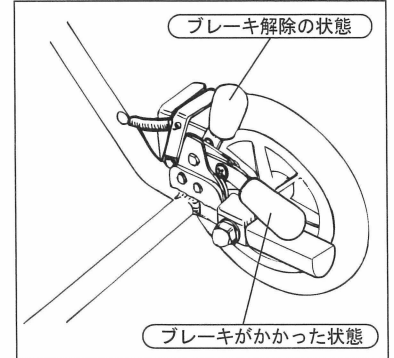
△ 角度を変える時は、必ず両手で操作を行ってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあります。



### ●ブレーキ

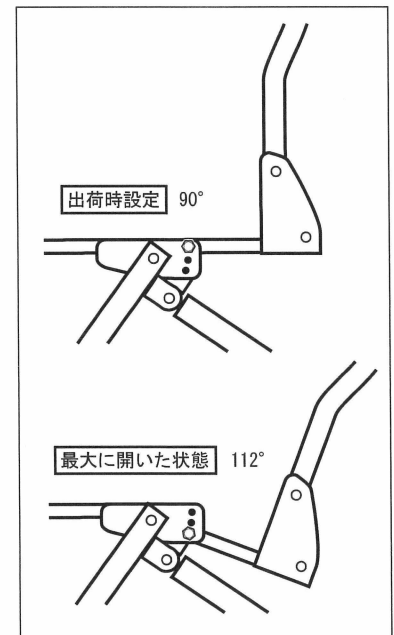
ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。ブレーキ本体とフレームを固定しているボルト(2本)を緩めることでブレーキのかかり具合が調整できます。調整後は必ずボルト(2本)を締めてください。

△ 調整を行う時はタイヤの空気が十分に入っていることを確認してからおこなってください。



### ●背座両面角調整

座面大腿部のねじを差しかえることで、背もたれと座面の開き角度を調整することができます。設定角度は90°・101°・112°の3段階です。スリングシートの張り調整と組み合わせる事で、身体状況に合わせた調整ができます。



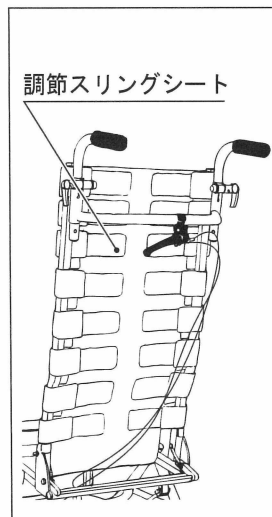
## 調節スリングシートについて

〔詳しくは、別紙「身体状況に合わせた調整例 [姿勢保持のポイント]」をごらんください〕

使用される方の身体特性に個別に対応し、後方ティルティングしたシートにゆったりと体をあずけていられるように、背・座のシート張り調整をおこなうことを目的としたものです。

骨盤が前方に滑り出しにくくなるよう、また体幹部を背もたれにゆったりあずけていられるように(前方に押し出されるように)調整します。

長期間使用するうちにスリングシートのたるみが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。



背もたれは、①骨盤の前後の傾き(背もたれ下部) ②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部) ③腰部の支え(背もたれ腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中の中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。

## ⊘ 禁止（絶対にしないでください）

- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 本人以外での使用はしないでください。他の人に譲り渡したり、貸し出したりしないでください。  
（補装具の制度で製作した場合）
- 処方を無視した使用はしないでください。  
（補装具の制度で製作した場合）
- 本人を乗せたままの放置はしないでください。
- 子供に操作させないでください。
- 坂道での駐車はしないでください。
- ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- 改造や分解はしないでください。
- フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれなど、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 折たたみおよび開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- 屋外での使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- 本人を乗せたままエスカレータを使用しないでください。  
（一般的にも禁止されています）
- 火気に近づけないでください。



## 注 意

- 定期的に処方者・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- 本人の成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方者のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。
- 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。
- 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないように注意して操作をおこなってください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをすることおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくとう部品にさびが出ることがあります。濡れた場合には乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用は絶対にしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響を与えることがあります。
- 使用を取り止めるときには(不要になったときには)取り扱い業者に御相談ください。
- エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際は注意してください。
- 踏切を横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。
- 押し手グリップに重いものを引っ掛けしないでください。転倒するおそれがあります。

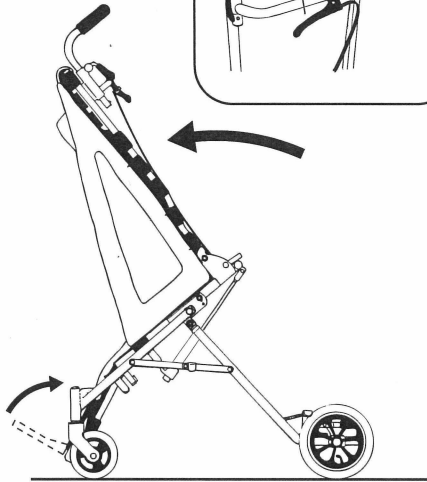
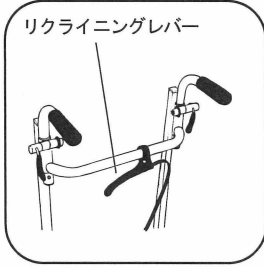
# 折りたたみ方



注意

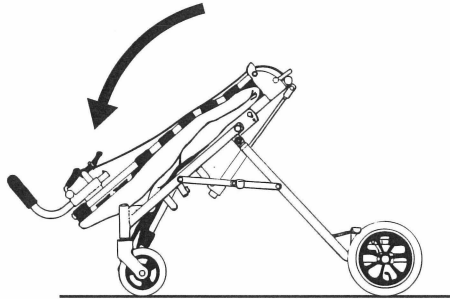
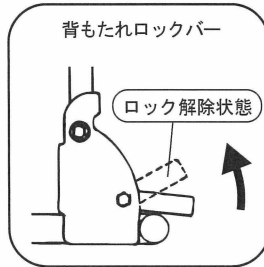
- ・ 傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・ 折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

1



まず、フットサポートを折りたたんでください。つぎに、リクライニングレバーを握り、止まるところまでリクライニングを起こします。  
(座面・レッグサポートがほぼ一直線になり前足フレームの内側に平行に重なります。)

2



背もたれロックバーをうえに上げ、背もたれを前方に折りたたみます。  
(このとき、スカートガードを内側に折り込んでください。)

3



持ち上げるとしげんに折りたたまれます

座面後方の丸パイプを持ち上げて足を折りたたんでください。  
△各部が運動して動きますので手や足をはさまないように注意してください。  
(前後足連結バーには特にご注意ください。)

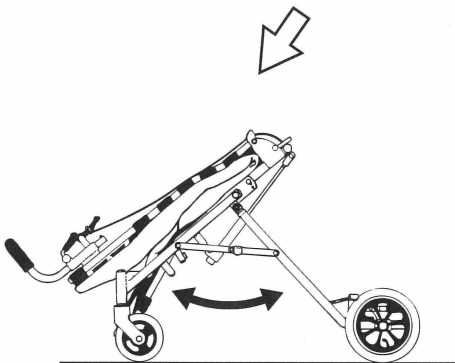
# 開き方



注意

- ・ 傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・ 折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

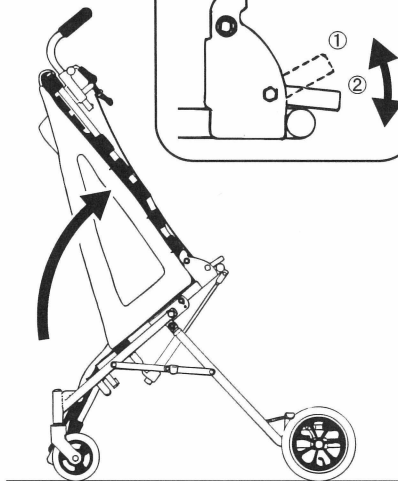
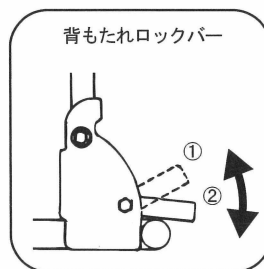
1



足を前後に開いてください。

△1.2の作業中は前後足連結バーはまだロックされていません。この状態で車椅子を持ち上げると前後の足が折り畳まれます。手や足をはさまないように注意してください。

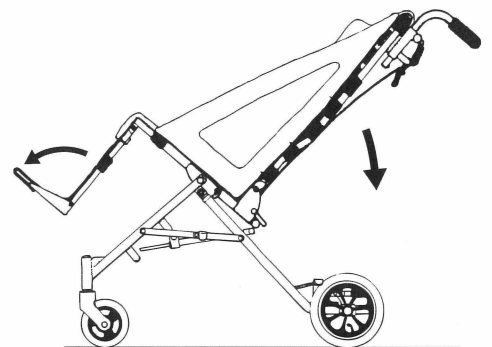
2



背もたれを起こしてください。

△背もたれロックバーが①の位置にある場合背フレームが固定されていません。②の位置にバーが下がって背フレームがしっかり固定されていることを確認してください。

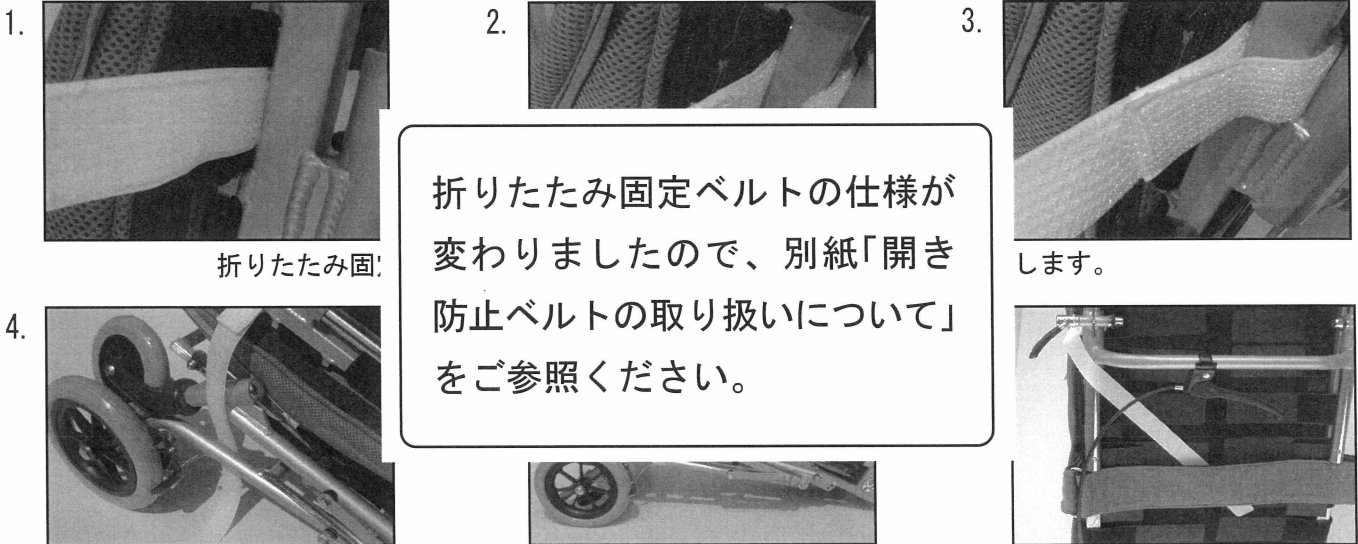
3



リクライニングレバーを握り適当な角度にセットしてください。(子供さんの乗せ降ろしは、いっばいにリクライニングしておいたほうが楽におこなえます。)最後にレッグサポートをさげ、フットサポートを開いてください。

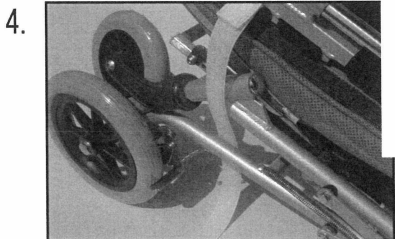
## 折りたたみ固定ベルトについて

(この写真のベルトはわかりやすいように着色しています)



1. 折りたたみ固

3. します。



4. 折りたたみ操作後、写真のように折りたたみ固定ベルトをフレームに通します。



折りたたみ状態にベルトで固定した状態。

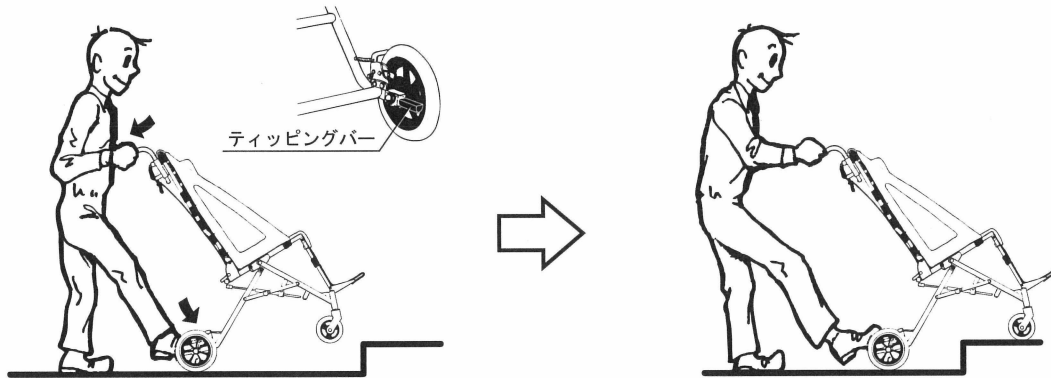
折りたたみ固定ベルトの仕様が変わりましたので、別紙「開き防止ベルトの取り扱いについて」をご参照ください。



注意

この折りたたみ固定ベルト完全な固定を保証するものではありませんので、持ち運び時や、立てかけておく際には周囲の状況に十分ご注意ください。

## 車椅子の取り扱い



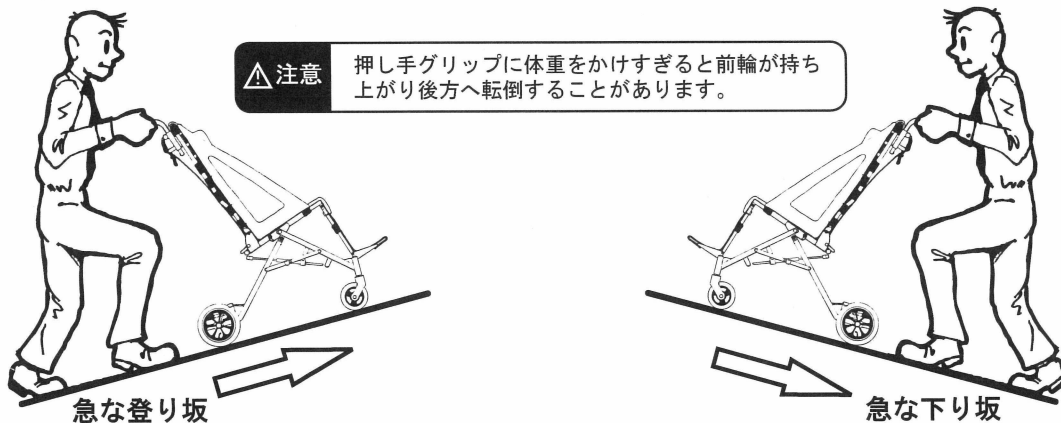
歩道の縁石などの段差を乗り越える場合は、ティッピングバーを踏み込み、押し手グリップを手前に引き寄せ、まず前輪キャスターを乗せ、次に後輪を浮かせ乗り越えてください。絶対に勢いをつけて乗り越えようとししないでください。



注意

ティッピングバー以外のフレームは踏まないでください。フレームに負担がかかり破損の原因になります。

(詳しくは、別紙「ティッピング(前輪上げ)操作説明書」をごらんください)



注意

押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

急な登り坂

急な下り坂

急な坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登るときは前向きで、下るときは後ろ向きで押してください。とくに、下るときに前向きだと、前方へ転倒したりスピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあります。

## お手入れ・メンテナンス

- 可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分の汚れをきれいに取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
- シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態で、きれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、すみやかに陰干しして乾燥させてください。  
(インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。)
- フレームは、直接水をかけて洗わないでください。フレーム塗装部分をたわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
- 調整や修理などはまず取り扱い業者にご相談ください。

取り扱い業者・連絡先

2016. 9. 20

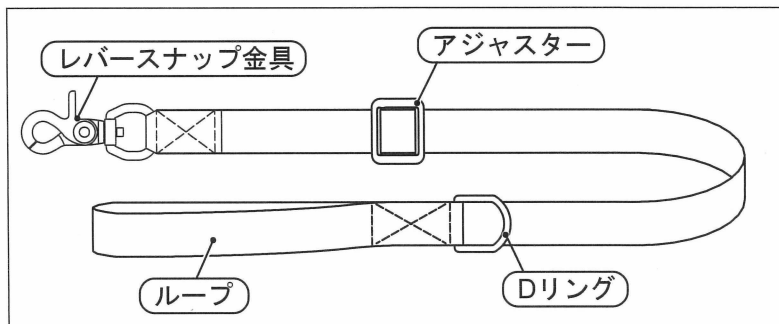


## 開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはRV-ポケットを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

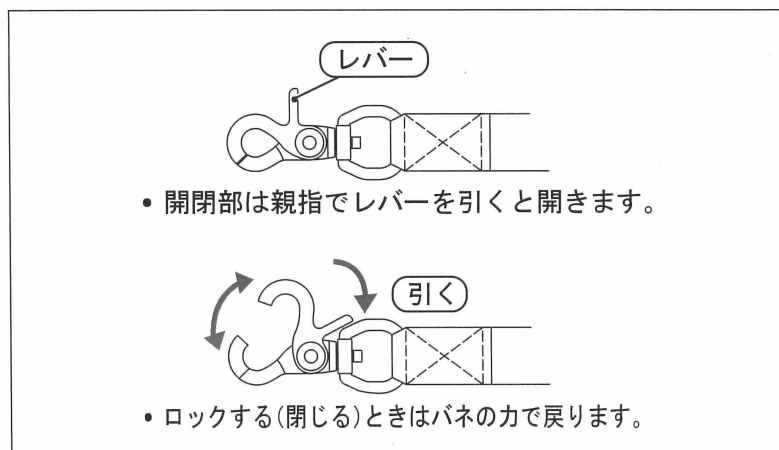
### ● 開き防止ベルト・各部の名称

- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- 折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。



### ● レバースナップ金具の取扱い

レバースナップ金具をDリングにかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。開いたままDリングにかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。



- 開閉部は親指でレバーを引くと開きます。

- ロックする(閉じる)ときはバネの力で戻ります。

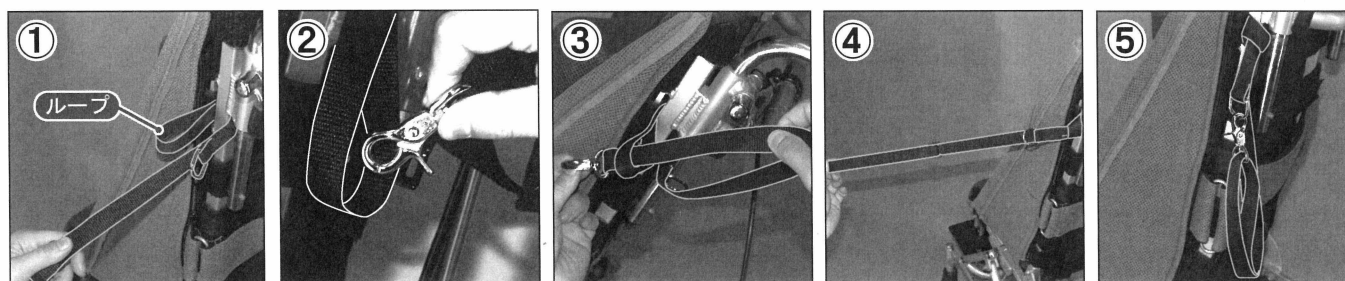


- レバースナップ金具の開閉部で指などを挟まないように注意してください。
- Dリングにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。

### ■ バギー本体への取り付け方法

開き防止ベルトは、左右どちらかの背フレームパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています) 取り付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。

バギーを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後足フレームの車輪付近でしっかり巻くことができます。



① Dリングが正面になるようにループを背パイプ内側から背フレームのスリット(またはスリングの間)に通します。

② ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。

③ ベルトがねじれないように注意して通してください。

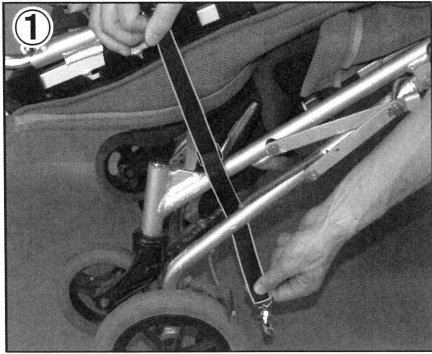
④ ループのところに余分なあまりやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。

⑤ 通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をDリングにかけてください。

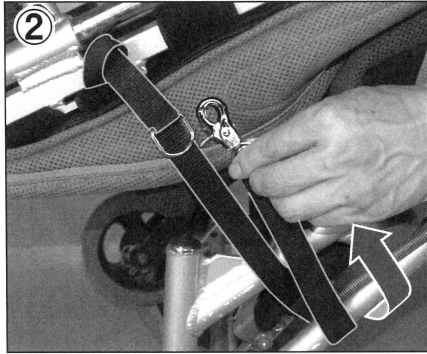


- 開き防止ベルトに搭乗者が手指をからませたり、また周辺の人や物に引っかからないように注意してください。
- メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取り付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないレバースナップ金具がDリングにかかることを必ず確認してください。

## 開き防止ベルトの使用法



① 折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトを後足フレームの内側へ通します。ベルトがねじれないように注意してください。



② 後足フレームを巻くようにして折り返し、レバースナップ金具を操作してDリングにかけてください。



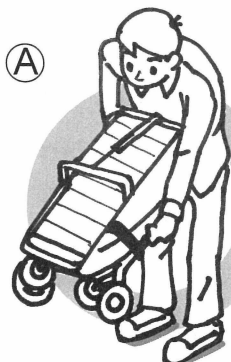
バギーを持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。

- 開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などをはさまないように注意してお取り扱いください。
- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- 開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態(ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど)では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

## 車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

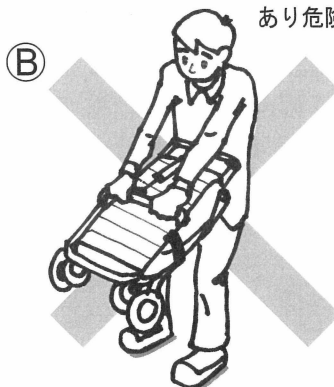
① 自動車のトランク(荷室)に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図Aのように、後輪のついている後足フレームをつかんで、下からバギー全体をかかえるようにして持ち上げてください。

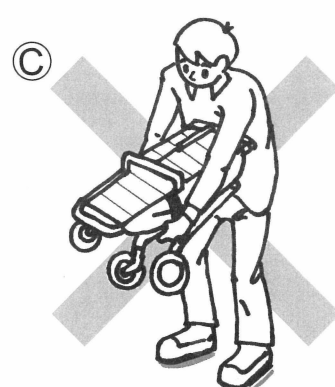


○ 後足フレームを持ち、全体をかかえてください。

図B・Cのように、背フレームのパイプのみ、もしくは前輪キャストのついている前足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。



× 背パイプのみを持っている。



× 前足フレームのみを持っている。